

平成 30年 2月 4日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 村武 まゆみ



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成30年1月17日(水)～19日(金)

2. 調査研修内容

大磯町における地域プロデューサーを核とした、官民協働による多角的なアプローチの様々な事業を調査した

案内人…原 大祐 (西湘を遊ぶ会代表)

磯崎 清彦 (大磯町産業環境部産業観光課観光推進係主任主事)

関山 隆一 (NPO 法人もあなキッズ自然楽校 理事長)

- 交流人口増への取組み…大磯町の空き家リノベーション事例
- 学校魅力化への取組み…星槎学園
- 子育て…こびとのこや (森の幼稚園)
- 観光交流…茅ヶ崎市、熊澤酒造のものづくり&レストラン

3. 研 修 先

大磯町…NPO西湘を遊ぶ会、星槎学園、こびとのこや

茅ヶ崎市…MOKICHI-熊澤酒造



4. 調査経費 51,204円

(経費内訳 浜田市～広島空港～羽田～大磯町
往復交通費、宿泊費)

交通費 (ホテルパック) 35,200円

交通費 (移動費) 5,669円

宿泊代 (ホテルパック外) 10,335円

5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり

【視察研修の概要】

- 視察研修名：大磯町における地域プロデューサーを核とした、官民協働による多角的なアプローチにおける様々な事業
- 日時：平成30年1月17日（水）10時～1月19日（金）23時
- 場所：神奈川県 大磯町、茅ヶ崎市
- 案内：原 大祐…（西湘を遊ぶ会代表）

1. 大磯市（おおいそいち）から生まれたセレクトショップ“つきやま”と周辺の店

- 大磯町は人口約32,000人で世帯数は12000世帯。東西に7km程度しかなく、海と山の間に挟まれた細い所に人口が密集している。
高齢化率は32%、県西部は消滅可能性都市になっている。
大磯町の予算は60億程度である。

セレクトショップ“つきやま”は大磯駅のそばに有り、昔 吉田茂首相の番記者が利用していた月山という飲み屋だった空家を改装し、オープンした。大磯町の商工会長が所有していて、貸すのも恥ずかしいという物件だったが、借り上げて、立ち木を伐採し雰囲気があるものを残して、大磯市出店者で評判のパン屋さんが入居した。

この「リーズブレッド」は朝のオープンから町内外のお客様が絶えない。今や神奈川県西部で1、2を争う評判のパン屋さんになっている。その後、周辺にはカフェや雑貨などの店が空家を利用してオープンし賑わい空間になってきた。



パン屋さん、リーズブレッドとカフェ、2階は食事出来る



セレクトショップ・つきやま

写真を見ればわかるが、駅からすぐそばの路地を入ったところに有り、手前につきやま、奥にリーズブレッドやカフェが有る。

とても近代的とは言えないが、昭和モダンの香りのする素敵な空間になっている。

パン屋さんの2階の部屋は食事が出来るスペースとなっており、下で購入したパンを食べ、お茶やコーヒーが飲める。以前お茶屋さんで茶箱（捨てられるようなもの）が、さりげなく置いてある。若い方やこだわりを持った方が多く、人気の理由がわかる。

2. 港オアシスと大磯市の連携での地域活性化について

大磯は昔は宿場町で賑わったが、明治になると今で言う海洋リゾート地として渋沢栄一始め安田、三井など多くの財閥の別荘が建った。また8人の首相経験者の別荘もあり、伊藤博文や吉田茂は町民だった。

神奈川県の一部は横浜や川崎など大都市が多く、西部は大都市部の校外だが、いわゆる地方（田舎）になっている。

少子高齢化により人口が減少し、農業や水産業も衰退、大磯港も有るが、漁師も少なく港はほとんど遊漁船が占めている。

しかし大磯を自立した地域にしたいと想い、地域の美味しい食材を探し、「美食のまち」を目指した。港の活性化、漁協を核に協議会を作り朝どれの魚で月1階の朝市を始めた。その拡大版として「港をチャレンジの場に」と現在の大磯市になった。

当初より出店基準は①地元である。②個人である③ハンドメイドである。を掲げ、毎回1万人は集客している。

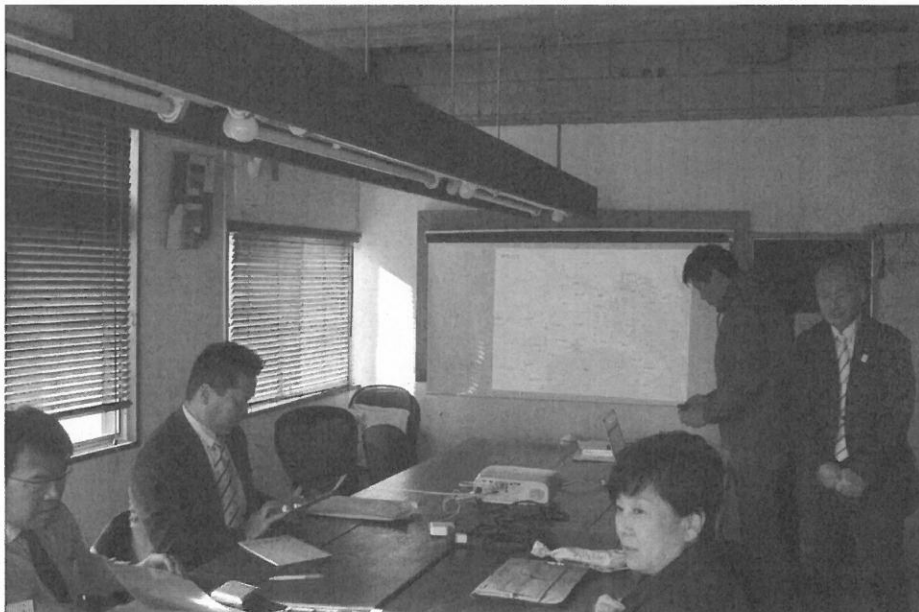
また無料の発表ブースも有る。これが地域のコミュニティになっている。

行政の補助金はゼロである。HPやSNSでの効果で、開始から8年経つが、移住や定住も増えている。

港オアシスのエリアを駅から港までとし、港を中心にエリアに価値を付けたい。

最初から観光客に向けてまちをつくるのではなく、住民の暮らしの質をあげ、素敵なまちになると観光客が自然とやってくる。という発想。住民も観光客もしあわせを感じるまちを目指している。

思いは『港を中心に、市をエンジンに、点を面に、エリアに価値を』



原大祐氏の港オアシス、大磯市の説明

大磯町産業環境部 産業観光課観光推進係 磯崎 清彦氏（補足説明）

3. もあな・こびとのこや（神奈川県大磯町 認可小規模保育施設）

元歯科医院の建物の1階部分を改修し開園している。

- 概要：定員は8/名で、対象年齢は0歳10カ月から3歳児未満。
保育時間は月曜日から土曜日午前7時半～午後6時半まで、延長保育は午後7時までとなっている。休日保育は無く、日曜祝日は休園。
- 特徴：“もりのようちえん”のスタイルを取入れており、子供達と共に毎日身近な自

然（海、山、畑）に出掛けていき、ゆったりと過ごす。

● 教育方針：

- ①自然を共に分かち合う！
- ②とことん遊びつくそう！
- ③子供も大人も共に育ち会う！

理事長の思いが詰まった保育園である。いわば詰め込み方の保育園ではなく、子供達に生きる力や想像力、感謝する力をつけたいという保護者が多くなっている。そのニーズに応え、そういう保護者を育てたいという思いがある。



説明者：NPO法人もあなキッズ自然学校 理事長 関山隆一氏

4. 星槎国際高等学校 湘南学習センター視察研修

星槎国際高等学校 湘南学習センターは平成11年に開港された広域通信制高校。通常の高校に行きにくくなった子供達が3年間の学習はスポーツを中心に活動しつつ、進学に対応できる学習、そしてアスリートにふさわしい生活を目指している。

教育の目的はスポーツや、学習、生活を通じて『共生社会の実現』。通信制高校だがスポーツに取り組んでいる生徒（サッカー専攻男子、硬式野球専攻、サッカー専攻女子、バレーボール専攻、陸上競技専攻、バスケットボール専攻）は、入寮したり通学し、それぞれの夢への挑戦や、その実現に向けて努力している。

夢の実現に向けたキャリア教育も充実しており、人と人との関わり合いがある「生きた授業」を実践している。登校も授業も自分で選ぶ大学スタイルの学習を取入れており

①「基礎学力の向上」国語・数学・英語は習熟度別の3クラス制の授業。

②「ゼミ活動」毎週木曜日、学年は関係なく指導者ゼミ、福祉ゼミ、PCゼミ等多種多彩なゼミ。

③「進路設計」1年次から将来計画を立て、丁寧な進学・就職・キャリア教育の実施。



『星槎グループ、副本部長』角木 孝生 氏『男子サッカー部、総監督』大森 西三郎 氏



「生徒の活躍」資料展示

5. 熊澤酒造 視察研修

神奈川県茅ヶ崎市香川に有る熊澤酒造にお邪魔し、社長の熊澤茂吉氏に話を伺った。

湘南でここしかない造り酒屋の熊澤酒造である。先代の茂吉（祖父）が低価格の酒を造り、地域に納めていたが、親族会議で廃業する事が決まり、自身足元の酒作り（熊澤家のルーツ）を見つめ直し事業を継承する事を決意した。

引き継ぐ時に事業を見直し、安物の酒から地元の米にこだわった酒造りや地ビールにシフトした。

造り酒屋なので、敷地は広く他の事業を模索当初、地ビールやレストランなどを手掛け、宣伝費をかけて集客を計ったが、需要にこたえられない結果になり、以降宣伝はしないと決め、時代の流れに変化対応出来るのは、徐々にやる事と心がけてきた。

地ビールや最初のレストランが当たったが、祖父が無くなって相続税が9億円位あり、利益は上がっているが、相続税を払う為に働いているのかと思う。

地元重視でやっており、平日は30代から上の女性客が大半である。

私は観光客やバスが行く所には行かない。観光客はリピーターでも無い。

私はリピーター（地元の方）の評価、満足を目指している。

地元の人が集い、楽しむそれでいいと思う。時間は掛かるけど…。

3棟古民家を移築したが、事業が成功したから、何とか利用できないかと言う話がある。古民家は、固定資産税評価額が低いので相続対策になるかも知れない。

色々な事業で人とのつながりが出来てくる。仲間と話をする中で新たな発想が出て来る。

最後に我々が地元が好きですかと聞くと「我が家は500年ここに住んでいる。好きとか嫌いとかでは無いと思う。」と言われた。

来年度企業型保育園を運営予定で、そこには前日話をお聞きした「もあな自然楽校」と連携して取り組むということを聞いた。



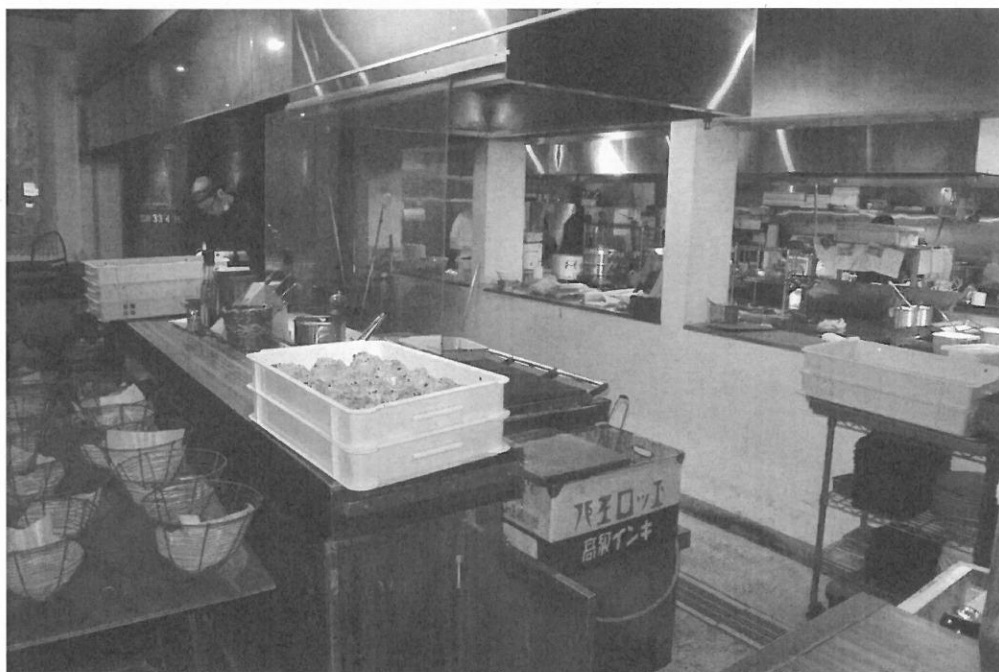
熊澤酒造入口



熊澤酒造 代表取締役 熊澤 茂吉氏を囲んで。



古民家を活用したレストラン



酒蔵を改修したパン工房



酒樽を造っていた倉庫をクラフト作家の展示場になっている。



敷地内にある mokichi green market

地域の無農薬農家が野菜を親子で販売していた。

【所 感】

今回の大磯町と茅ヶ崎市の視察において、当初計画していた二宮団地は時間的な都合で行く事が出来なかったが、ご案内を頂いた西湘を遊ぶ会代表の原大祐さんには大変お世話になった。

自分の住んでいる所（故郷）が好きで、そこに暮らす人が満足して幸せを享受出来る地域にしたいと言う思いが、様々なプロジェクトを生み地域が生き活きとしているのだと感じた。

そこに暮らす「キーワード」を具体化した“大磯市”や、そこに集まった人のつながりから空き家のリノベーションと新たな創業、新店舗等が連鎖的に広まっている。

そこに有る“暮らし”と言う感じが、地域外からの『住みたい!』を呼ぶと思う。

星槎国際高等学校では、スポーツを柱にした教育では有るが、キャリア、セカンドキャリアと広い目で将来の自分を見つめていく子供たちを育てている。

生徒たちの、地元貢献も素晴らしかった。これも高校の魅力化かも知れない。このような高校を見たのは初めてで、いろいろが教育の形があるということを知った。現代学校に行きにくい、社会になじみにくい子供が増えている中、そのような子供達を社会で生

きていく力をつけていくことを考えているところには強く感銘を受けた。

熊澤酒造さんも湘南に有るものを提供し、地域の皆さんに楽しんでもらう事を話された。

そこに引かれた人々が集まって来る。それは観光客も一緒だと思う。

ここは特に女性が「何度も行ってみたい」という思わせる店づくりを展開している。赤ちゃんのおむつ替えスペースや小さな子供がいても家族でゆったりとできるスペースなど細かな所まで気遣いが見える。そこでおいしいものが食べたり飲んだりでき、買って帰ることもできる。さらに地域の子供たちの絵が展示してあったり、小さな図書室のスペースやワークショップなど学ぶ事もできる。店のスタッフ達が自分だったら・・・という思いをおしゃれでスマートに演出している。社長の辣腕ぶりに感心するばかりであった。

全体的に自分達が良いと思うものをとことん追求する事が、地域の賑わいや活性化につながる事を再認識させられた。そしてまちや店を引っ張っていくカリスマリーダーがいるからこそ実現できているのかもしれないと感じた。このリーダーをどう浜田で創っていくか、また引っ張ってくるか。これは浜田の魅力を発信するところから始まると同時に、市民がこの浜田で自然を生かした豊かな生活をシェアできだと感じることができるかというところにかかっているのかもしれないと思う。ぜひそのようなまちにしていきたい。

(ちなみに、原大祐氏は本年3月、邑南町で地域おこしの講演をされるそうです。)